

原三溪

Hara Sankei

— 岐阜に生まれ、岐阜を愛す —

原三溪（一八六八〜一九三九）は、美濃国厚見郡下佐波村（現・岐阜市柳津町）出身の実業家・文化人です。

三溪は、結婚を機に、横浜の生糸商・原家に入り、実業界で成功しました。

また彼が造った広大な日本庭園「三溪園」（国名勝）は、現在も多くの人々に親しまれています。

横浜を中心に活躍した三溪ですが、彼は終生故郷を忘れることはありませんでした。

本展では、三溪の実家・青木家に伝来した文書から、三溪を育んだ環境や岐阜を離れても故郷を思い、つながりを持ち続けた姿を紹介します。



原三溪肖像写真

原家の家紋の付いた羽織を着ています。
下佐波村の庄屋・青木家に生まれた三溪（本名：富太郎）は、原家に入り、家業の生糸商を日本有数の生糸貿易商社へ成長させました。

三溪園（※鶴翔閣付近）

明治35年（1902）から横浜市本牧三之谷に本格的に建設が開始され、各地から優れた古建築が移築されました。号の「三溪」は、「三之谷」にちなむとされています。明治39年の開園当初から市民に無料で開放されました。



令和6年 **10月15日（火）**～**11月29日（金）**

入館無料

◆会場 **岐阜県歴史資料館 1階展示ホール**

◆開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

◆休館日 土・日・祝日（11月3日（文化の日）は除く）



原三溪

Hara Sankei

— 岐阜に生まれ、岐阜を愛す —

◆故郷に思いを寄せた書画



初公開!

白木蓮図屏風

金地に白木蓮を描いています。三溪は、美術品を収集するだけでなく、自ら筆をとり、優れた書画を残しました。その中には、故郷を題材にした作品も多く見られます。この作品は、水琴亭(岐阜市)離れの「時雨の間」に描かれた「白木蓮」との関連も想定されます。



「三溪」の落款印(画面左下)

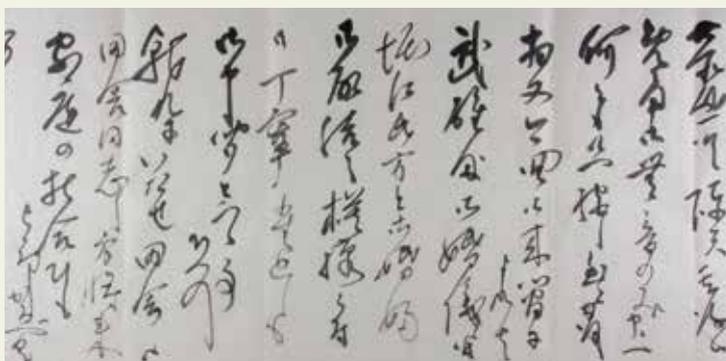
◆三溪の心の支え



青木武雄肖像写真

武雄は、三溪の18歳下の弟です。原家に入った三溪に代わり、青木家を継ぎました。

◆三溪 弟の婚約を喜ぶ



青木武雄婚約につき手紙

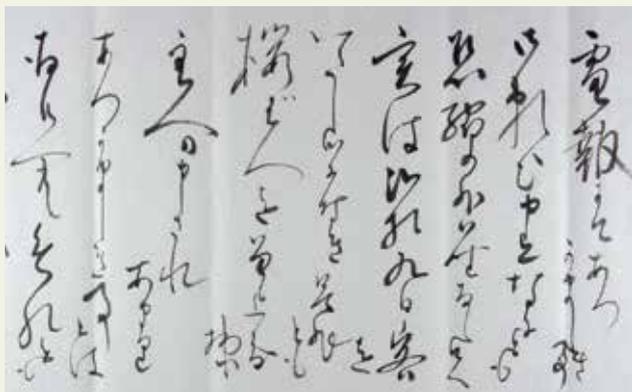
明治41年(1908)頃、三溪が父・青木久衛に宛てた手紙。父から知らされた、弟・武雄と茜部村(現・岐阜市茜部)の堀江家の娘さんとの婚約に賛成しています。手紙の行間からも、三溪の喜びと安堵感が伝わってきます。



原三溪の署名

左の手紙の署名。本名の「原富太郎」と書かれています。

◆故郷の味を愛した三溪



「桜ばえ」など恵送につき礼状

三溪の妻・やすから、弟・武雄の妻・ぎん宛ての礼状。青木家から贈られたサクラバエ(カフヒガイ・コイ科の淡水魚)を三溪が大変喜んだことを記しています。故郷岐阜の食材を愛した三溪、岐阜の青木家と横浜の原家との親密な関係がうかがえます。

連携企画

原三溪顕彰講演会
日時: 11月9日(土)13時30分～
講師: 柏木智雄氏
(横浜美術館副館長)
演題: 原三溪の伝説のコレクションを読み解く
会場: 岐阜県図書館 多目的ホール(1階)
主催: 原三溪・柳津文化の里 構想実行委員会
共催: 岐阜県歴史資料館 岐阜市
お問い合わせ先:
実行委員会 事務局市川
090-1233-8368

岐阜県歴史資料館

〒500-8014 岐阜市夕陽ヶ丘4

電話 058-263-6678

交通: (JR岐阜駅方面から)

岐阜バス「本町1丁目」バス停下車、東へ徒歩8分(長良・高富方面から)

岐阜バス「大仏南・妙照寺前」バス停下車、東へ徒歩5分

岐阜県歴史資料館

検索

